

平成 25 年度環境技術実証事業 有機性排水処理技術分野
技術実証検討会（第 2 回）議事要旨

1. 日時：平成 26 年 2 月 28 日（金）15：00～17：00

2. 場所：法曹会館 寿の間 / 東京都千代田区

3. 議題

- (1) 実証試験要領改訂の検討 …………… (資料 1)
- (2) 環境技術実証事業ヒアリング調査結果 …………… (資料 2)
- (3) 事業実施計画及び進捗状況 …………… (資料 3 - 1)
実証対象技術の選定結果 …………… (資料 3 - 2)
- (4) 実証試験結果の報告及び報告書案の検討【非公開】
 - スカムセーブネット&オイルキャッチシステム …………… (資料 4)
NH-K B シリーズ (置型ネットホルダー)
 - スカムセーブネット&オイルキャッチシステム …………… (資料 5)
NH-F シリーズ (深型ネットホルダー)
- (5) その他【非公開】

4. 出席者

検討員：藤田正憲、岡田光正、徐開欽、鈴木隆幸、鈴木敏資、宮腰智裕

事務局：環境省、一般社団法人埼玉県環境検査研究協会

運営機関：株式会社エックス都市研究所

5. 配布資料

- 資料 0 検討員名簿
- 資料 1 有機性排水処理技術分野 実証試験要領 改定箇所一覧
- 資料 2 平成 25 年度環境技術実証事業ヒアリング調査結果
(有機性排水処理技術分野)
- 資料 3 - 1 平成 25 年度事業実施計画及び進捗状況
- 資料 3 - 2 報道発表資料 平成 25 年度環境技術実証事業 有機性排水処理技術分野
における実証対象技術の選定について(お知らせ)
- 資料 4 実証試験結果報告書(案) < 委員限り >
スカムセーブネット&オイルキャッチシステム
(NH-K B シリーズ・置型ネットホルダー)
- 資料 5 実証試験結果報告書(案) < 委員限り >
スカムセーブネット&オイルキャッチシステム
(NH-F シリーズ・深型ネットホルダー)
- 参考資料 環境技術実証事業 有機性排水処理技術分野 実証試験要領

【 開 会 】

会議は公開にて行われた。

事務局より藤田検討員（座長）に議事進行をお願いした。

【 議 事 】

（ 1 ）実証試験要領改訂の検討について

資料 1 のとおり説明した。

< 説明概要 >

平成 24 年度より環境技術実証事業運営委員会で、各分野の要領の見直しを進めることとなり、分野間の統一的な表記を確認した。運営機関と調整を図りながら実証試験要領の改訂を進めた。実証試験要領の改訂によって事業の活性化ができるかという点も含め検討を行い、所要の改定を行った。参考資料「環境技術実証事業 有機性排水処理技術分野 実証試験要領」は現行版の実証試験要領である。

修正内容の中で「先進的な技術」という表現にとらわれすぎることなく、この分野で求められている低コストなどのキーワードも含め、表記を十分検討する旨の意見があり、運営機関と調整することとした。議事(1)について承認された。

（ 2 ）環境技術実証事業ヒアリング調査結果について

資料 2 のとおり説明した。

< 説明概要 >

地方自治体 18 件に環境技術実証事業ヒアリング調査結果を実施したところ、環境技術が必要となる場面として、小規模の飲食店の事例が多い一方、クリーニング業、バイオディーゼル精製の排水等の特異的な業種の回答を得た。環境技術が必要ではないという回答もあった。きっかけとしては油分、悪臭、苦情を起因とする回答が多かった。こうした規制基準値超過や苦情に対する指導として、効果のない技術の取り外しといった大胆な指導がある一方、詳細な指導はしていない/できないといった行政担当者の力量に起因する回答もあった。今後はヒアリング調査結果を広報資料などに掲載し、実証試験の公募の推進につなげていく。

（ 3 ）事業実施計画及び進捗状況、実証対象技術の選定結果について

関連事項であるため、資料 3 - 1、資料 3 - 2 について一括して事務局より報告した。

< 説明概要 >

平成 25 年 5 月 9 日から同年 11 月 29 日まで実証対象技術を募集し、技術実証検討会にて、実証対象技術の選定を行い、2 件の技術を選定した。本技術実証検討会の審議にて承認を得た後、実証試験結果報告書を取りまとめる予定である。

以降、【非公開】で議事を進行した。

（ 4 ）実証試験結果の報告及び報告書案の検討について

（ 5 ）その他

以上